戦後72年目の8月15日を迎えたハルモニたち、ナヌムの家の近況とお知らせ

皆さま、いかがお過ごしでしょうか・・・2017年も残すところ3ヶ月となりました。

しばらくナヌムの家の状況をお知らせできませんでしたので、今日はナヌムの家の近況とお知らせなどお伝えいたします。

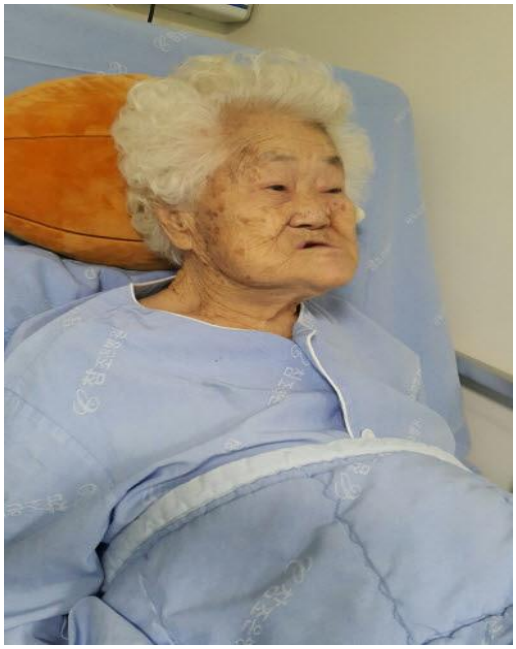
政府に登録された被害者239人のうち生存者は37人 今年に入ってから3名のハルモニが亡くなりました。
2017年7月23日・・金君子ハルモニ（91歳）がお部屋でひっそりと亡くなられました。

1998年ナヌムの家開設初期から暮らしていたハルモニでした。ハルモニの人生は苦しく孤独でした。
1926年、江原道平昌(ピョンチャン)で生まれ、10歳で父、14歳で母を亡くしました。きちんと勉強することもできないまま親戚の家で育ち、17歳の時に中国吉林省琿春慰安所に連行されました。3年間の「慰安婦」生活。あまりの苦痛に自殺を図っただけでも7回。日本兵に鼓膜が破れるほど殴られ、左の耳は生涯聴こえませんでした。日本敗戦の後、慰安所のあった中国から故郷を求め38日間歩き、豆満江(トゥマンガン)を泳いで渡りやっと（故郷）に戻ることができました。
しかし苦痛の「慰安婦」生活が終わっても、その後の人生も辛いものだったそうです。中国に連れていかれる前に婚約していた男性と再会、ともに暮らし幸せな日々を迎えたのもつかの間、家族のつよい反対の中で愛する人は自殺してしまいました。その後一人で生んだ娘も、わずか5カ月で他界。その後ナヌムの家に来た1998年まで、君子ハルモニは一人で暮らしていました。
ハルモニは生前「何が一番つらかったですか？」との質問に、「寂しいこと。一人で暮らしていたから。
それが一番つらいんだよ」と答えておられました。
　1998年、いまから20年近く前にナヌムの家日本軍「慰安婦」歴史館が開設。
　たくさんの国内外のボランティアのみなさんがハルモニたちを支え、少しでも、一瞬でも過去の残酷な苦しみ、悪夢から解放できるようにと支え続けてきました。
　ハルモニたちは、そんな唯一の福祉施設で暮らしていらっしゃいます。
　金君子ハルモニを始め、すでに旅立っていかれたハルモニたち。日本軍「慰安婦」連行の事実を認め、公式に謝罪し、全貌を明らかにし犠牲者たちのために慰霊碑を建ててほしい。生存者や遺族に対し公的に補償してほしい。二度と再び同じ間違い、過去が繰り返されないように歴史教育を通じて事実を教え続けてほしい。こうした必死の願いを、いのちの灯が消える最後の日まで願い、訴え続けたハルモニたち。
その願いがかなえられず、未練を残したまま旅立たれたハルモニたち。

↓　7月10日、キム・クンジャハルモニ最後の写真。

この日もハルモニはナヌムの家を訪れた韓国政府のチョン・ヒョンベク女性家族部長官にお会いになり、「被害者たちの名誉を回復してほしい」と心からのお願いをされました。

その2週間後の2017年7月23日、
金君子ハルモニは他界されたのです。
まるで遺言のように、この言葉を最後に永眠されました。



←　金君子ハルモニ葬儀の夜、
李玉善ハルモニが体調を崩され入院しました。

李玉善ハルモニは、ナヌム家近郊の教会に毎週日曜日、金君子ハルモニと一緒に礼拝に参加されていました。

熱心に信仰生活を送っていらしたお二人でした。

「なぜ、私をおいて先に行ったんだぁ」とても恐い顔で葬儀の席を立ち、その翌日　入院しました。

診断の結果は身体的なストレスと疲労。

この日から食事をするとおなかが痛いと訴え入院。

内視鏡の結果は問題もなく、2～.3日で退院できると思っていましたが、食事が取れず気力がなくなり入院生活。

それでも8月16日に訪ねた時は、気分が良かったみたいで笑顔で迎えてくれました。

ナヌムの家の中にある居間では、これまでハルモニとボランティアの人たちの笑い声が絶えることなく響いていました。

今は居間にあるテレビの前には朴玉善ハルモニと河占連ハルモニのお二人だけ。

言葉を交わすこともなく、じっとテレビを見つめているお二人。

どんどん静かになっていく居間。

こんなに広かったのかな？と思えるくらい自分の声だけが響く居間。本当に辛い。

ナヌムの家の玄関から居間に入るとハルモニたちの視線がいっせいに自分に向けられ、冗談が入った悪口や温かく迎えてくれる言葉、歌を歌っているハルモに、顔を見るなり手伝ってくれとせがむハルモニ、得意げに噂話を教えてくれるハルモニ。賑わっていた頃が今は懐かしく、胸が痛みます。

今日も朴玉善ハルモニはお一人で訪問される方々にお一人で迎え入れてくださっています。

無念な思いをもったまま旅立たれたハルモニたち・・・。ナヌムの家にはさまざまな遺品が残されています。

現在、この遺品を展示する遺品館、追悼館を建設しており、ナヌムの家歴史館の敷地の一角に完成します。

ハルモニたちの足跡を感じられる場所です。

単に保存するだけではなく、訪問された方々に見ていただいてハルモニを感じていただく、そんな空間です。

完成予想図

基礎工事

１階工事（遺品館建物《予定》）

２階工事（追悼館建物・展示館《予定》）

２階工事（追悼館建物・展示館）木造韓国式建物

写真のように韓国式建物をモチーフにした木造建築。追悼館では、先に亡くなった少女を含むたくさんの被害者ハルモニ、そしてナヌムの家で暮らされたハルモニを思い手を合わせる空間を設け、協力者の作家の皆さんが作られた絵画、作品を展示しハルモニの生きた証、時間を感じられる空間もつくります。

李玉善ハルモニが連行された16歳当時の姿と、今現在のハルモニが並んだ銅像もできました。

8月14日、世界の慰安婦の日に全羅道光州南区楊林洞ペンギン村の入口に設置されました。

今までナヌムの家を応援してくださった皆様へ　・・・

ハルモニたちが亡くなったとしても歴史を消し去ることはできません。

日本政府が願っていること、歴史の事実を忘却の彼方に捨て去ることは決して許されません。

いま韓国では、ハルモニたちが亡くなっていってるからこそ、その思いを受け継ぎ、公的謝罪や公的な賠償、二度と同じ過ちを繰り返させないための努力を求める声がますます大きくなっています。

追悼館と遺品館がハルモニたちの生きた証を残すとともに、歴史問題、日本軍「慰安婦」問題の解決に少しでも役立つことを願っています。

こうした願いを込めて、**2017年11月18日午前10時からナヌムの家日本軍”慰安婦”歴史館 遺品記念館及び追悼館オープン記念式を開催することを決定し記念式参席にご招待いたします。**

今まで、ナヌムの家とハルモニたちは多くの日本のみなさんに支えていただいてきました。

多くの支援と多くの寄付に支えられ今までがあります。ハルモニが亡くなられた後も、そのご縁をぜひつなぎ続けたいと願っています。

このたび応援してくださった皆様に感謝を込めて、オープニングセレモニーへの参加の旅にご招待したく企画いたしました。ほんの気持ちではありますが、1泊２日の宿泊食事の費用をナヌムの家で負担いたします。

取りまとめには、これまで多くの方をナヌムの家にお連れいただいた　2つの旅行社 東京（株）たびせん・つなぐと、北海道（株）旅システム、 に日本のとりまとめを依頼しました。

たくさんの参席をお待ちしております。

オープン当日にはイベントセレモニーも準備しています。日本の皆様の中で公演希望の方がいらっしゃいましたら、是非お問い合わせください。

韓国では伝統サムルノリ楽器祝賀演奏、韓民謡祝歌・演舞披露など準備しております。

残念ながら人数の制約もございますので、できるだけ早くお声をかけていただけたら嬉しいです。

招　待　状

ナヌムの家「遺品記念館及び追悼館オープン記念式」

行事に参席にご招待いたします。

日時：2017年11月18日（土曜日）　午前10時～

場所：ナヌムの家日本軍「慰安婦」歴史館　上部会場

金君子ハルモニを初め、すでに旅立っていかれた少女達そしてハルモニたち。

日本軍「慰安婦」連行の事実を認め、公式に謝罪し、全貌を明らかにし犠牲者たちのために慰霊碑を建ててほしい。生存者や遺族に対し公的に補償してほしい、二度と再び同じ間違い、過去が繰り返されないように歴史教育を通じて事実を教え続けてほしい。

こうした必死の願いを、いのちの灯が消える最後の日まで願い、訴え続けたハルモニたち。

この世に未練を残し 無念な思いをもったまま旅立たれたすべての被害者ハルモニたち・・・

ナヌムの家には無念を残したハルモニのさまざまな遺品が残されています。

心理治療の一環としてが作られた作品をはじめ絵画を展示しハルモニの生きた証、時間を感じられる空間を設けました。

ご多忙の折とは存じますが、是非この機会にオープン記念の祝いと、ハルモニとの再会の意味を込めて
遺品館・追悼館に足を運んでいただけたら幸いです。

参加に関する問い合わせは下記の連絡先にお願いいたします。すべてのとりまとめをお願いしています。

● 株）たびせん・つなぐ　代表取締役　大西　健一

住所　：　〒101-0064　　東京都千代田区猿楽町1-3-1　北村ビル302

代表電話：03-5577-6300,　FAX:03-5577-6310　　Eメール：onishi@tabisen-tsunagu.com

● 株）旅システム　代表取締役　内山　博

住所：　〒065-0012　北海道札幌市東区北１２条東７丁目1-1　ワコービル３階

代表電話：011-742-2260　FAX：011-142-2265　E-mail　tabi@tabisystem.com

一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

日本軍”慰安婦’歴史館ナヌムの家　所長　安信権